

日语教学必备丛书

日语功能句型 指导篇

(日) K.A.I.T 编著
熊文莉 译

活きた日本語を伝えるための機能
語の指導法をらくらく習得
あなたの指導に「ピリリ」と効く

外语教学与研究出版社

日语教学必备丛书

日语功能句型 指导篇

(日) KALT 编著

熊文莉 译

活きた日本語を伝えるための機能
語の指導法をらくらく習得
あなたの指導に、ピリリハと効く

外语教学与研究出版社
北京

京权图字: 01 - 2009 - 1897

Copyright by K. A. I. T. 2003

Originally Published by ASK Publishing Co., Ltd., Tokyo Japan

图书在版编目(CIP)数据

日语教学必备丛书. 日语功能句型指导篇 / 日本开放·创新日语学校编著;
熊文莉译. — 北京: 外语教学与研究出版社, 2009.6

ISBN 978 - 7 - 5600 - 8709 - 2

I. 日… II. ①日… ②熊… III. 日语—句型—教学参考资料 IV. H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2009) 第 095745 号

你有你“优”——点击你的外语学习方案

www.2u4u.com.cn

阅读、视听、测试、交流

购书享积分, 积分换好书



出 版 人: 于春迟

责任编辑: 杜红坡

封面设计: 张 峰

出版发行: 外语教学与研究出版社

社 址: 北京市西三环北路 19 号 (100089)

网 址: <http://www.fltrp.com>

印 刷: 中国农业出版社印刷厂

开 本: 880×1230 1/32

印 张: 9

版 次: 2009 年 6 月第 1 版 2009 年 6 月第 1 次印刷

书 号: ISBN 978 - 7 - 5600 - 8709 - 2

定 价: 18.00 元

* * *

如有印刷、装订质量问题出版社负责调换

制售盗版必究 举报查实奖励

版权保护办公室举报电话: (010)88817519

物料号: 187090001

出版说明

为满足日语学习、研究者以及初涉日语教学的教师等各方面、多层次的需求，我社特地推出了《日语教学必备丛书》系列。本丛书收录内容丰富，既有适用于初学者的语音、语法教学方面的介绍，也有对日语研究者最关注的新型理论研究成果的讲解，还包括对日语教学中涉及到的功能句型、词汇、语法等方面的具体知识的指导，同时还广泛涉猎了与日语教学相关的语言、文化等方面的理论研究等。本系列覆盖面广，讲解精细，是对日语教学经验的介绍和总结。

《日语功能句型指导篇》为其中的一册，本书内容大致如下：

本书对中级日语中出现的重点功能句型从其使用的实际场景、同义句型以及学习者的误用几个方面进行了彻底分析。通过分析，教师可轻松掌握功能句型的教学指导，大大提高教师的教学效果。

外语教学与研究出版社

はじめに

毎日授業に追われると、つい、ひとつひとつの言葉を吟味することなど忘れてしまうものです。とりあえず、こう言っておけば、一応学習者もわかった顔をするし、まあいいか、と毎日が過ぎていきます。学習者の話す日本語にもなんとなく会話が噛み合わないようなことがあるけど、外国語だからしょうがないか、とおかしさに気付かないふりをしてしまう……。何か違うと思っても、そのうちそれが当たり前に感じてしまっている……。

そんなとき、一度頭の中を真っ白にして自分自身にこう問い直してみてください。

「＜教えるための＞日本語になっていないか？」

「私自身、その言葉を本当にこんなふうに使うだろうか？」

「それを言う目的は何か？」

「相手のどんな反応を期待して言うのか？ 同情がほしいのか、謝ってほしいのか、納得してほしいのか」

本書の企画・執筆に当たって、現場の教師たちに何度もこの問いかけをし、何度も書き直してもらいました。そのためにまず、一度、徹底的に自分の体験に落とし込み、そのときの自分のどろどろした心情～驚き・怒り・感動・嫉妬～などを見つめてみる、というプロセスを通してから分析に入るようにと。

分析は、「コミュニケーション」をテーマに、話し手が期待するコミュニケーション効果、聞き手の受け取り方を中心に考えました。特に、交流分析という精神分析の一つの手法を使って、「話し手として聞き手に何を望むか？」「どのような状況で、相手のどのようなリアクションを期待するのか」を考察、反映させています。

今回、この交流分析の専門家である金井まゆみ先生には、お忙しいところ、監修を快く引き受けてくださり、この場を借りてお礼申し上げます。また、日々の授業に追われながらも、何度も書き直しに挑戦してくれたカイ日本語スクールの教師の面々と、度重なる変更にも忍耐強くおつきあいくださったアスク編集部の方々に心より感謝の意を表します。

山本弘子

目次 CONTENTS

本書について	8
--------------	---

CHAPTER 1 交流分析

～交流分析からみた日本語コミュニケーション～	12
------------------------------	----

CHAPTER 2 機能語

1 かえって	21
2 ～かねない	25
3 ～からこそ	29
4 ～から～にかけて	33
5 ～からには	35
6 ～きる	37
7 ～くらい／ぐらい	41
8 ～くらい～はない	45
9こそ	47
10 ～際(に)	51
11 さえ～ば	53
12 ～ざるをえない	57
13 ～ずにはいられない	59
14 せっかく～のに	61
15 そういえば	65
16 ～そうな	69
17 ～だけあって	73
18 ～だけでなく／だけじゃなくて	75
19 ～だけに／だけの	79
20 たとえ～ても	83
21 ～たところ	87

22	～たところで	91
23	～たびに	95
24	～つつある	99
25	～っぱなし	101
26	できたら／できれば	105
27	～てたまらない	109
28	～てはじめて	113
29	～ということだ	115
30	～というと	119
31	～というもの／というものではない	123
32	～といえは(やはり)	125
33	～といっても	129
34	～とおり(に)／とおりの／とおりだ	133
35	～ところ	137
36	～どころか	139
37	～として(は)	141
38	～とはいえ	145
39	～ながら／ながらの／ながらも	149
40	～など	151
41	～なんて	155
42	～に至るまで	159
43	～において	161
44	～に応じて	165
45	～にかわって	167
46	～に関して／関する／ついて	169

47	～にすぎない	171
48	～に対して／対しての	175
49	～につれて	177
50	～にとって	181
51	～にもかかわらず	183
52	～のもとで／もとに	187
53	～ばかり(か)	189
54	～ばかりに	193
55	～ば～ほど	197
56	～はもちろんのこと／はもちろん～も	201
57	～べき	203
58	～ほど	207
59	～ほど～は(い)ない	209
60	～まい(が)	213
61	～ものだ	215
62	～も～ば～も／～も～なら～も	217
63	～わけだ	219
64	～わけではない／わけがない	223
65	～わけにはいかない	227
66	～を通じて／通して	229
67	～をはじめ	233
68	～をめぐって	235

機能別索引	277
-------	-----

著者紹介	280
------	-----

COLUMN

現場の視点から

1 着こなし上手……………24	21 苦手な文法アンケート ～概略～……………128
2 千羽鶴の思い出……………28	22 日本語の難しさ①……………132
3 「ココデコロシテクダサイ！」……………32	23 日本語の難しさ②……………136
4 初級のケンカ……………40	24 日本語の難しさ③……………144
5 カイ日本語スクール料理教室……………44	25 日本語の難しさ④……………148
6 「教育工学」しましょう！……………50	26 日本語の難しさ⑤……………154
7 便利恐ろしこの表現……………56	27 日本語の難しさ⑥……………158
8 好きな言葉アンケート ～概略～……………68	28 ゆるせない日本語！……………164
9 好きな言葉ランキングベスト5①……………72	29 忘れられないエピソード……………174
10 好きな言葉ランキングベスト5②……………78	30 たまたまが重なって……………180
11 好きな言葉ランキングベスト5③……………82	31 私を日本語教師にした一言……………186
12 好きな言葉アンケート ～コミュニケーション・あいさつ編～……………86	32 教師は愛嬌……………192
13 好きな言葉アンケート ～若者言葉編～……………90	33 変容する教師……………196
14 好きな言葉アンケート ～笑える回答編～……………94	34 友達の協力は強力！……………200
15 伝えたい日本 ～教師の視点から～……………98	35 今日からできる コミュニケーショントレーニング……………206
16 伝えたい日本①……………104	36 紙芝居の効果……………212
17 伝えたい日本②……………108	37 九十九折の坂道……………222
18 伝えたい日本③……………112	38 日本語教育 ～地域日本語編～……………226
19 伝えたい日本④……………118	39 日本語教育 ～取り出し授業編～……………232
20 伝えたい日本⑤……………122	

COLUMN

译文……………237

1. 全体の構成

本書は2つのCHAPTERから成ります。

CHAPTER 1では「交流分析」という視点から日本語コミュニケーションを見つめ直してみました。

交流分析というのは精神分析の手法ですが、学習者の日本語やその会話の流れを分析していくことで、言語・非言語的手段以前に必要なコミュニケーションの基盤を認識していただけたと思います。

CHAPTER 2では日本語学習における中級レベル以上の「機能語」(「着こなし上手」P.24参照)を取り上げています。掲載されている68項目は、主に実際に言葉を使用する場面でのコミュニケーション効果に着目し、選出しました。また、文法的な解説に終始せず、交流分析の観点から発話時の感情や意図を再確認していただくことを目指しました。

実践的なCHAPTER 2をご利用になる前にCHAPTER 1をお読みいただくことで、これまでの教師用マニュアルや解説書とはひと味違う手応えを感じていただけたと思います。

2. 各項目の構成

各項目は次のような構成になっています。

問題ページ

ここは3つのステップから成り立ちます。すべてのステップが問題となっています。各問題(Q)は次ページで解答や根拠などを解説しています。が、まず最初は解説ページを頼らず、自力で解答を見つけるようにしてください。日本語を母語話者とする人であれば、何かしら自分なりの答えを見つけることが可能な問題ばかりです。

STEP 1

使用場面を再現し、使用時の感情や期待する効果を分析します。

STEP 2

類義語や似たような形・語句との違いに気付くためのステップです。

STEP 3

これまでのステップを考慮しつつ、実際の教え方や学習者が発しやすい誤文、誤って解釈されやすい傾向とその対策について考えます。

確認しましょう

ここでは問題ページで提起された問題の解答・解説を行っています。しかし、問題ページで問われているのは文法の法則やルールではなく、使用場面や期待する効果、感情などです。このページで展開される解説は、ひとつの解釈です。みなさんの分析の一助としてご利用ください。

現場の視点から

日本語を一方的に教えるだけが日本語教師の仕事ではありません。日本語教師という仕事は国籍・言語・習慣・文化の違いを乗り越えた学習者との共同作業です。このコラムのページでは、実際の日本語教育現場での様々なエピソードを紹介することを目的としています。ベテラン教師の胸の内や、新米教師の目標などは、これから日本語教師を目指す方々や現職者の方々にとって、心の支えとなるかもしれません。学習者たちの日本語と日本に対してのイメージは、いつもとは違う角度で自分の授業を見つめ直すヒントとなるでしょう。肩の力を抜いて「日本語教育現場こぼれ話」として楽しんでいただければ幸いです。

3. 本書の効果的な使い方

先に述べたように、本書では各項目が問題ページと解説ページから構成されています。初めから解説ページに頼らず、まずは問題ページに自分なりの解答を試みてください。その上で解説ページをご覧になっていただく形が本書の効果を実感いただける使用方法です。

また、本書の掲載順序は五十音順となっております。が、巻末には機能別の索引を設けてあります。いずれかの索引から辞書のように必要なときに必要なところだけをご参照いただけるようになっております。

もちろん、最初からページ順に読み進めていただいても構いません。

ひとつだけご注意いただきたいのは、本書は日本語を母語話者とする人々を読者と想定したものです。各項目の問題ページは外国人学習者には適当ではありません。あくまでも、授業を行う前の教師のための内容となっております。

以上の点を確認したうえで、効果的にご利用ください。

CHAPTER 1



交流分析

交 流 分 析

～交流分析からみた日本語コミュニケーション～

言葉というのは、コミュニケーションの道具の一つです。コミュニケーションの方法には言語を使ったものと、表情やジェスチャー、声色などの非言語の二つに分けられますが、情報を伝えられる割合は言語が7%に対して、なんと非言語が残りの93%といわれています¹。妻が夫の浮気を見破るというのも、別にテレパシーが働くわけではなく、たいていは夫が浮気を隠そうと「いや、上司に飲みにつきあわされてね」などと嘘をつくときの目の動きやしぐさなど、細かい異変から判断しているのでしょう。もっと日常的な例では、「おいしい」と言っても、まずそうに言ったらお世辞としか受け取られない（つまり、「おいしい」という言葉の意味はまったく伝わらないこと）などが挙げられます。つまり、コミュニケーションは、道具（言葉）だけではなく、それを使う人の気持ちや使い方（表現方法）こそ大切、ということであり、逆に言えば、それらを考慮しないと、言葉などまったく役に立たない、ということにもなります。

このように、私たちの日常の言語行動は、文字化できないさまざまなことが織り込まれ、それを総合的に判断して行われています。ここでは、それを交流分析（TA）²という精神分析の手法の一つを通して見てみましょう。

●● TAの基礎概念（自我状態と交流）

人は、状況や相手に応じて自分のふるまい、考え、感情が変化します。例えば、子供をかわいがっているときの親のような自分と、仕事をしているときの大人の自分、カラオケで騒いでいるときの子供のような自分は、同じ自分でありながら、まるで何人もの人格が出たり入ったりするように感じることもあるでしょう。これをTAでは「自我状態」と呼んでいます。自我状態は、「親-Parent：価値観、モラル」「成人-Adult：客観的な判断、分析」「子供-Child：感情」の3つのモデルに分けられます。それぞれを英語の頭文字をとって、「P」、「A」、「C」と表します。

●● PACの機能

人の自我状態が3つ（親、成人、子供）に分けられる、ということはわかりました。ところで、親には父親と母親がいるように、親的自己の表れ方にも2通りあります。ま

¹ マレービアン¹の法則：アメリカの心理学者A.マレービアンが行った有名な実験結果（人のコミュニケーションに占める言語と非言語の割合は、言語7%に対し、非言語93% —うち表情55%、声の調子などの周辺言語38%）

² Transactional Analysis（TA）：アメリカの精神科医エリック・バーンにより1957年に創案された。精神分析の口語訳とも呼ばれるように、一般の人でも簡単に自己分析ができ、対人コミュニケーションを改善できると、多くの企業研修などにも取り入れられている。自我状態をグラフでとらえるエゴグラムが有名（『語彙と文型指導編』参照）

た、子供にも自由な子供と従順な子供の2通りあると考えられます。(成人だけは分割されません)これをTAでは、次のように表します。

- CP : Controlling Parent (支配的親)**～社会的規範、モラル、ルールの維持～
正義感が強く道徳的で規則に忠実だが、高すぎるとガミガミうるさく批判的、独断的な一方、低いとルーズで曖昧、無責任になる。
- NP : Nurturing Parent (養育的親)**～子供を養い育てる優しさ、愛情～
思いやりがあり優しく包容力があるが、高すぎると過保護でお節介、えこひいきなどの傾向が強まり、低いと冷たく人への配慮関心が薄い。
- A : Adult (成人)**～計画的、合理的、分析的、論理的思考など～
理性的で分析力、判断力があるが、過剰な場合は打算的で機械的、頭でっかちな印象を与え、低いと場当たりの判断力がなくなる。
- FC : Free Child (自由な子供)**～想像力や行動力、ひらめきなど～
自由な発想や行動力を持ち明るく楽しいが、過剰だとわがままで衝動的である一方、低い場合、暗く気力が乏しく弱気な傾向が強まる。
- AC : Adapted Child (順応した子供、養子)**～協調性、従属性など～
順応性があり気配りや配慮で周囲と協調するが、過剰な場合は依存心が強く閉鎖的かつ反抗的になるが、低いと頑固で一方向的になる。

ある日本語教師の一日

自我状態は固定的な性格というより、ある時点での自分の心の状態です。ある日本語教師の一日を通して、自我状態の現れ方を見てみましょう。

朝、私はいつもの時間通り教室に入ると、学習者に「おはようございます」とあいさつをします(A)。私の1日の始まりです。すると、みんなも「おはようございます」と気持ち良く返事をしてくれます。「よーし、今日も1日がんばるぞ」という気持ちが沸いてきます。軽く、「昨夜見たテレビ」の話をしながら、学習者の顔を一人一人確認していきます(A)。学習者の頭が日本語モードに切り替わってきたところを見計らって、そろそろ授業の本題に入っていきます。

説明が一通り終わり、「さあ、これからロールプレイ」というところになって、遅刻の常習犯リーがやってきました。ムッとしながらも表面上は冷静に、しかしつついこんな言葉を浴びせてしまいます。「遅刻3回で欠席扱いでしょ！子供じゃないんだから気をつけなさい！」(CP)いつになくきつく叱ってしまうと、「すみません……」と珍しくシュンとしたリー。夜遅くまでバイトをしていることをふっと思い出して、急にかわいそうに思えて、「頑張ればまだ大丈夫よ」と優しく励まします(NP)。

授業が終わり教務室に戻ると、同僚がお土産を配っていました。それは大好物のお団子だったので、思わず「うわぁー、おいしそう！」大きな声をあげていました(FC)。ところがその声を主任に聞くとがめられ、ついでに出席簿のつけ忘れを指摘されてしまい、恐縮し上目がちに「気をつけます」と謝りました(AC)。

●● 対話分析

～相補交流(望んでいる会話)と交差交流(ちぐはぐな会話)～

さて、誰かとコミュニケーションする場合、人はこれらのどの自我状態からも話することができ、また、どの自我状態からも答えることができます。例えば、「こら！ 何やってんだ！」と怒鳴ったときの言葉は、親の自我状態（P）から相手の子供の自我状態（C）に向けて発しているものだと考えられます。それに対して「すみません」と謝るときは、子供の自我状態から相手の親の状態に向けて答えている、ということです。こうした会話についての心理的分析を、TAでは「対話分析」といいます。

対話分析は、それぞれの自我状態がどこから出て、相手のどこに向かっているのかを、下図のように表します。

教師 「こら！ 何やってんだ！」 P→C
学習者 「すみません」 C→P

左の教師の発話P（親）の自我状態から学習者のC（子）に入り、それに対して学習者の反応が、CからPに向かっています。見ての通り言葉の方向を示す矢印（ベクトル）は平行です。

これは話す側の期待どおりの（この場合従順に謝る）反応が返っていることを示しており、この会話はスムーズに進みます。こうした形の会話をTAでは**相補交流**と呼びます。ここでわかるように、会話というのは誰に向けてというだけでなく、相手の自我状態を無意識のうちに選んで、そこに向かって話しかけている、と同時に、相手に望む反応をあらかじめ期待しているものだ、ということがわかります。ところが、世の中はいつも期待どおりにいくわけではなく、むしろそうでないことのほうが多いものです。例えば、次の会話例を見てください。

教師 「明日は遅刻しないでください」 P→C
学習者 「明日は土曜日です」 A→A

図を見てわかるように、矢印（ベクトル）が交差しています。このような話す側の期待に反する反応が戻ってくる、いわばちぐはぐなやり取りをTAでは**交差交流**といいます。こうなると話し手にとって期待しない方向から答えが戻ってくるので、交差交流が起ります。その結果、感情を害して話が中断したり喧嘩に発展したりすることになるのです。

